

<最終選考委員からのコメント>

いしい しんじ (作家)

京都は物語でできた町。そこに、今年もあらたに300編近い新作が加わりました。
応募作はすべて「候補作」。切実な声、豊かなことば、ふたつとないストーリーとの出会いを、こころから楽しみにしています。



井上 荒野 (作家)

コロナ禍、そして京都という町。化学反応のようなものは起きるでしょうか。
私にとってはこの文学賞のはじめての選考になります。
どきどきしながら待っています。



© 三原 久明

めんじょう
校條 剛 (文芸評論家)

初回からコロナ禍に見舞われた本賞ですが、それにも拘わらず、この第三回で300篇近い応募があったことは嬉しいことです。今回は、どんな京都に出会えるのでしょうか。もの凄い傑作が来ているのではないかと、いまから期待が高まります。

